

## 2012 年度事業計画

### 1. 会員 (2012 年度未予定)

2012 年度には会員を増やすための努力をするとともに、会員数が減少しても運営できる財務体質を目指す。

### 2. 会議

#### 2.1 第 1 回通常総会 (2012-06-xx)

#### 2.2 理事会 (年 4 回以上開催)

#### 2.2 役員会 (年 6 回以上開催)

#### 2.3 評議員会 (年 1 回開催)

### 3. 事業活動

#### 3.1 機関誌発行

4 冊の機関誌を編集刊行する。採録論文の一部は、機関誌のサイバー増大号の形で電子的に出版する。現在の解説論文や特集号の充実を維持する。

読者モニタ制度を続け、編集作業の参考とする。学会員が投稿しやすい機関誌を目指し、電子投稿システムの導入など、投稿システムの改善を図る。

編集長が任期満了のため、本位田真一編集長から田中二郎編集長に交代する。

#### 3.2 大会

第 28 回大会を以下の要領で開催する。

日 時： 2012 年 8 月 22 日 (水)～24 日 (金)、併設イベントは未定

会 場： 法政大学 小金井キャンパス

大会委員長： 柴山 悦哉 (東京大学)

運営委員長： Shaoying Liu (法政大学)

プログラム委員長： 寺岡 文男 (慶応大学)

登壇発表申込締切： 未定

予稿原稿締切： 未定

#### 3.3 講習会

最新のソフトウェア技術等に対する理解を会員に深めてもらう、あるいは特定の基礎的技術を体系的に学び直せるような内容の「チュートリアル」もしくは「大学基礎講座」を 3～4 件程度企画し開催する。

#### 3.4 研究会

次の 8 研究会が活動する。各研究会の活動予定は下記の通りである。

##### (1) 「ソフトウェアシステム」研究会 (主査： 千葉 滋)

過去の論文などのリソースを整理し廃止に向けて作業を進める。(2) 「プログラミング論」研究会 (主査： 千葉 滋)

FLOPS2012 を開催

サマースクール 1 回開催 (2012-08 大会併設)

ワークショップ 1 回開催 (2013-03)

コンピュータソフトウェア誌への論文推薦

##### (3) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査： 大沢 英一)

合同ワークショップ&シンポジウム (2012-10)

##### (4) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査： 五十嵐 健夫)

- ワークショップ 1 回開催 (2012-12-06 ~ 08)  
情報処理学会インタラクション 2013 協賛  
エンタテインメントコンピューティング 2013 協賛
- (5) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査：杉山 安洋)  
ワークショップ 1 回開催 (2012-11-19 ~ 21)  
ソフトウェア科学会大会 FOSE 研究会セッション (2012-08 大会併設)
- (6) 「インターネットテクノロジー」研究会 (主査：明石 修)  
ワークショップ 1 回開催 (2012-05-31 ~ 6-1)  
コンファレンス 1 回開催 (2012-11-15 ~ 16)
- (7) 「ディペンダブルシステム」研究会 (主査：光来 健一)  
ワークショップ 1 回開催 (2012-09 から 2012-12)
- (8) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査：中島 秀之)  
ワークショップ 2 回開催 (2012-08, 2012-12)

### 3.5 広報

本学会 Web ページ，会員メーリングリスト等の電子的な広報手段を整備・活用し，  
有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する．

### 3.6 (法人化)

### 3.7 功労賞，フェロー

功労賞，フェローを選考する．

### 3.8 賞の選考

研究論文賞，解説論文賞，高橋奨励賞，基礎研究賞を選考する．

## 2012 年度予算

2012 年度の単年度予算としては収入 19,400,000 円，支出 19,400,000 円を計上している。

今年度は法人化と事務局移行に伴い，費目を一部変更した。まず，会員関係であるが，入会金・会費収入予算は，2012 年 1 月 16 日時点での正会員 922 名，学生会員 205 名，準会員 28 名，団体会員 8 団体，賛助会員 8 社 という実態を踏まえ，年度末における退会者およびそれより少し多めの新規入会者を見込み，納付率 90 % として算定した値に滞納金支払い見込みを組み入れたものである。研究活動費に関しては，論文賞 2 件および解説論文賞 2 件分の予算を計上している。大会については，今年度は都内開催予定であることを勘案し，過去と同様の収支と見積もって算出した。機関誌については，サイバーページのボリュームとしては昨年度と同程度のものを想定しており，昨年度途中から別刷代を廃止し掲載料にしたことから別刷代の支出コストは少なく見積もっている。機関誌業務費については，機関誌に付随する発送費・発送手数料，著者負担金請求手数料等を計上している。講習会については，昨年度と同程度で 4 回の開催を予定している。委託手数料については，ホームページ管理業者および会計管理のための税理士への委託料を計上している。また，法人化に伴い法人税を税金がかかるため租税公課を計上している。事務局費については，案内通知，督促状等，会員員管理・会計等の年間業務委託費を計上し，事務局変動費として，機関誌，資料の保管料やその他事務局に委託する費用を計上する。今年度は保管資料の移転が完全に終了していないため，保管料が余分にかかっているが，年度の途中で整理する予定である。